



矢巾新病院完成後の矢幅駅から新病院までの駅前通りにぎわい広場  
(街並みのイメージであり、建物の形状は異なります)

# 圭陵会々報

発行所 岩手医科大学圭陵会  
 〒020-8505盛岡市内丸19の1  
 Tel 019 (651) 5111番  
 Fax 019 (624) 8380番  
 E-mail info@keiryokai.gr.jp  
 URL http://www.keiryokai.gr.jp  
 題字 三田定則 先生書  
 発行人 齋藤和好  
 編集人 前沢千早  
 印刷所 山口北州印刷

10 月 号

目次	1
齋藤和好圭陵会会長就任ご挨拶	1
石川育成圭陵会会長退任ご挨拶	3
小川彰理事長ご挨拶	4
教授就任ご挨拶	7
医療専門学校入試概要	8
薬学部学業奨励奨学金奨学生	10
学術振興会研究助成・褒賞	11
圭陵会本部だより	18
新役員会則改定、支部長参与会	20
代議員会・総会	20
支部だより	3230
医学部同窓会だより	4333
新役員	6261
医学部同窓会長就任退任ご挨拶	58
評議員会・総会	58
歯学部同窓会だより	58
新役員 支部長会 評議員会・総会	58
トビックス・学生活動優秀賞	58
馬術部新馬購入ご寄附のお願い	58
お祝いご逝去人事・編集後記	58



## 圭陵会会長就任のご挨拶

圭陵会会長 齋藤和好

去る六月十二日の圭陵会代議員会・総会の席にて小川理事長先生の御推挙により圭陵会会長の大役を仰せ付けられました。医14期の齋藤和好であります。

開学百二十年もの輝かしい歴史を有し、会員一万余名（平成二十八年四月一日現在九、三八六名）をも擁する圭陵会の会長に選ばれましたことは誠に光栄に存じますが、歴代の名会長星先生、小川先生、石川先生の後任として十分な職責を果たせるのか、極めて不安な気持ちではありますが新執行部、全国各支部の先生方の御支援・御指導をいただき岩手医科大学

のために全力をあげて取組む所存であり、ますので、どうぞよろしくお願い致します。現在大学は歴史上画期的な年を迎えようとしております。御存知の如く、来年の創立百二十周年記念のお祝をはじめ、内丸メディカルセンター・矢巾への新病院移転に伴う財政上の問題等の難題をも抱えております。特にこれらの問題に関しては圭陵会員皆様の物心両面に涉る尊い御援助が是非必要であります。成績が低迷化している医師国家試験に關しては、対策援助金を医学部同窓会から今年増額致しました。学生の義務とし

て、六年間で卒業して、ストレートに国試に合格して欲しいと願っております。学内の教職員の皆様方の御苦労に頭が下がりますが、新医学部長・佐藤洋一先生の手腕に期待しております(主陵会々報、第三五二号)。

昨年十一月の全国私立医科大学医学部同窓会連絡会にて、同窓会活発化の要因として学生への支援、若い会員との積極的なコネクタクト、各支部組織への呼びかけ等、情報交換を盛んにすることによって同窓会への参加を増加させようという提案がまとまり、本学でも医学部同窓会としてこちらから学生に向かって働きかけ、ある程度の効果を感じることができました(主陵会々報、第三四九号)。

今回、会長就任後全国七十七支部の内、三八、気仙、北上・和賀、水沢の各支部を訪れる機会がありました。各支部共六月の主陵会総会時の様子を役員の先生方より詳しく各会員に支部会の席上で伝えていただきました。特に三八支部からの「支部活動の現況等の把握と、今後の同窓会の活性化等の資料とするため」のアンケート調査は会報三四九号に発表済ではありますが、現

在の我が岩手医科大学にとって非常に参考になるものばかりであり、今後十分に活用させていただきたいと思っております。又、今回同様、各支部会に伺った際には、慣例として校歌(CD)を全員で歌って、愛校心の向上に努めたいと思っております。

最後に「主陵会の発足と命名」について記録を調べてみましたので、御参考までに付記致します。

『昭和七年三月二十六日、岩手医学専門学校第一期生の卒業式挙行直後、卒業生全員が教室に集合時、異口同音に「同窓会を作ろう……」という合言葉のもとに「大同団結」を誓い合いました。その後十月に二期生の北海道への修学旅行があり、北大等を見学し同窓会の必要性を更に強く感じ、帰盛後一期在盛者と懇談し、学校の向上発展のために同窓会の必要性を再確認し①心のふるさとにふさわしい会名、②学校の向上発展を第一の目的とする、③財政を強固にするため、の施策の三点が提案されました。更に会名についても夜を徹しての討議が行われ、「刀圭」(薬を盛るさじ、転じて医術の意)と医専学生を愛情を持って育ててくれた杜

陵市民の「陵」の字を忘れるべきでないとの意見を加えて、「主陵会」という会名が正式に決定したのは、昭和七年十二月十八日午後七時四十六分のことであった……。(岩手医科大学主陵会五十年史) という感動的な記事が載っております。

私共も昔の大先輩の「会」創立時の御苦労を偲び、愛校心を胸に、大学の向上発展を目ざして頑張りましょう。主陵会員の皆様方の力強い御指導・御支援を切にお願い申し上げます。

因みに、私は時々校歌(土井晩翠作詞、山田耕筰作曲)を聞きながら、岩手医科大学の向上発展を想い、自分自身を鼓舞(?)させております。皆さんも、いかがですか!



## 主陵会会長退任のご挨拶

石川 育成

成二十八年には「エネルギーセンター」が完成し、そして、平成三十一年にはいよいよ新病院の開院が予定されており、我々会員が望む方向に着実に歩みを進めております。

故大堀勉前理事長と小川彰現理事長の強力なご指名により、三期九年に亘って主陵会会長を務めて参りましたが、六月三十日付けをもってその重責を辞させて頂きました。

私は、常々「主陵会長は名誉教授を含めた大学人がやるべき」との考え方でございましたので、この度そのような本来の体制に戻して頂くように小川理事長にお願いをして、快くご了解を頂きました。また、主陵会の役員の先生方にもご了承を頂いたところであります。

母校「岩手医科大学」は、明治三十年私立岩手病院に併設された「医学講習所」を起源としており、その後「岩手医学校」「岩手医学専門学校」「岩手医科大学」と変遷しながら、医療

人の育成を続けて参りました。平成二十九年四月には、創立百二十周年を迎えることとなります。

この間、昭和四十年に「歯学部」を、平成十九年に「薬学部」を開設し、平成二十九年四月には「看護学部」が開設されます。創立百二十周年を迎える年に「医学」「歯学」「薬学」「看護学」の四学部体制となり、全国にも例を見ない医療系の全ての学部を持つ医療系総合大学に成長致しました。

また、岩手医科大学は、「総合移転整備計画」を遂行中であります。私が主陵会会長に就任した平成十九年に「矢巾キャンパス」が開設され教育部門や研究部門の移転が始まりました。平

この九年間を顧みて、このような母校の大変革期に臨んで主陵会長として十分な活動ができただろうかは、会員各位の御判断にゆだねるとして、これからは私の理想である「大学人を会長」として、先頭に押し立てて、「総合移転整備計画」と「創立百二十周年記念事業」を完成させて頂きたいと存じます。岩手医科大学が築いてきた伝統をさらに発展させて下さるものと確信しております。

今まで皆様から頂戴致しましたご厚情に対し、衷心より御礼を申し上げますとともに、会員の皆さまには今後とも岩手医科大学並びに主陵会に対し一層のご支援を御願い申し上げて、ご挨拶とさせていただきます。

主 陵 会 本 部 だ よ り

主 陵 会 新 役 員

任期：平成二十八年七月一日～平成三十一年六月三十日

会 長 齋藤 和好 (医14・盛岡)

副 会 長 祖父江憲治 (医22・学内)

三浦 廣行 (歯4・学内)

佐藤 洋一 (医27・学内)

小澤 正吾 (他・学内)

嶋森 好子 (他・学内)

赤坂 俊英(医25・北上・和賀)

医学部同窓会長

城 茂治 (歯7・学内)

歯学部同窓会長

幹 事 長 増田 友之 (医31・学内)

副 幹 事 長 藤村 朗 (歯9・学内)

鈴木 健二 (医34・学内)

監 事 岡田 健男 (医15・盛岡)

猪苗代盛昭 (歯1・気仙沼)

工藤 賢三 (他・学内)

議 長 小守林尚之 (歯1・盛岡)

副 議 長 赤坂 俊幸 (医21・盛岡)

常任幹事 福島 明宗 (医22・三八)

末安 民生 (他・学内)

金村 清孝 (歯25・学内)

近藤ゆき子 (医35・学内)

財務局次長

小原 航 (医46・学内)

廣 裕 (医36・学内)

真瀬 智彦 (医36・学内)

学術局次長

千葉 俊美 (医37・学内)

厚生局次長

菅井 有 (医33・学内)

組織局次長

佐藤 健一 (歯18・学内)

阿部 晶子 (歯13・学内)

渉外局次長

幅野 渉 (他・学内)

葉学部同窓会局次長

牧田 芳久 (医13・東京)

佐々木信之(医14・宮城県仙台)

九月二十三日現在。変更等があった場合はHPに今後掲載。

主 陵 会 常 設 会 則 改 定 委 員 会 報 告

日 時 平成二十八年六月十一日(土)

午後四時十五分

場 所 ホテル東日本

出席者 委員十五名中、出席者九名

山 形 淳 委 員 長 挨拶

委員長である山形 淳先生(宮城県仙台支部長)より開会にあたり、本日の議題は主陵会会長より本委員会に諮問のあった事項を中心に審議を行ってまいりますので、よろしくお願ひしたい旨のご挨拶があり、議事に入った。

一、審議内容

(一) 主陵会会則及び主陵会会則施行細則の一部改正について

事務局より、改正について次の説明があり、その後審議の上承認され、その旨主陵会会長に答申することとした。

(説明内容) 大学が平成二十九年四月看護学部を新設することに伴い、主陵会会則等の一部改正、葉学部の新設の際の改正に準じた改正(準会員に「看護学部」に在籍中の学生」を加える)を行う。また、看護学部の準会員の会費(一時金)は、案として一〇四学年まで各学年毎に一万円、四年間で四万円とすること。そのほか、同一時金は看護学部の学生が卒業するまでは、看護学部学生の事業にあてるほかは、積立てて保管することとするが、会費の額及び同徴収については、今後大学と主陵会との協議で決定されることから、その制定内容については幹事会に一任願うこと。

なお、この改正内容は、常任幹事会・幹事会において審議・承認され、明日の主陵会代議員会・総会に議案として上程するものであること。

(二) 主陵会学術振興会会則等の一部改正について

事務局より、改正について次の説明があり、その後審議の上承認され、その旨主陵会会長に答申することとした。

(説明内容) 学術振興会会則の一部改正は、大学の組織の変更(全学教育推進機構の設置及び共通教育センターを教養教育センターに名称変更、医歯薬総合研究所の設置)等に合わせ「役員、選考委員」の名称の変更及び役員の追加等を行うこと。併せて、学術振興会諸申請要項の改正では、選考委員会での協議を受けて共同研究の研究者については「共同研究者は申請者の講座・学科等と異なる講座・学科等、または異なる学部等の者であることが望ましい。」と改正すること。その他、大学の組織変更等に伴う名称の変更等を行うものであること。

なお、この改正内容は、常任幹事会・幹事会において審議・承認され、明日の圭陵会代議員会・総会に議案として上程するものであること。

(三) その他  
特に審議事項は無し。

**平成二十八年度圭陵会  
圭陵会支部長・参与会報告**

日時 平成二十八年六月十一日(土)

午後五時

場所 ホテル東日本

出席者

来賓一名、支部長三十一名

参与一名、役員十六名、計四十九名

**一、石川育成会長挨拶**

本日は先生方にはお忙しいところ、またご予定もあつたと存じますが、盛岡までいらしていただきまして、誠にありがとうございます。

私から挨拶で申し上げるまでもなく先生方全てご案内のことでございますが、今考えておりますことを一、二申し上げさせていただきます。

本学は県立図書館より出てきました文献により、明治三十年に私立岩手病院に併設された医学講習所を起源としていることがはっきりしたわけでございます。

その後、本学は岩手医科大学、岩手医学専門学校、岩手医科大学と変遷しながら医療人の育成を続けてまいりました。

そして、来年、平成二十九年四月には創立百二十周年記念を迎えることとなります。

その間本学は、昭和四十年には歯学部を、平成十九年には薬学部を開設し、来年四月には看護学部を開設することとしております。

創立百二十周年を迎える年に、医学・歯学・薬学・看護学の四学部体制となり、全国にも例を見ない医療系の全ての学部を持つ医療系総合大学となるわけです。

本学は、平成二十六年六月には総合移転整備計画を踏まえた「岩手医科大学創立百二十周年記念事業」を開始いたしました。

その移転整備事業の中で新病院の核となるエネルギーセンターがこの四月に完成し、セレモニーに私も出席いたしましたし、威風堂々たる姿を目の当たりにしてまいりました。

平成三十一年の開院を目指し、来年には新病院の建設に着工いたします。夢であった新病院、その姿が現実のものとなって、いよいよ見えてまいりました。

岩手医科大学は、我々会員が望む方

向に着実に歩みを進めていることは事実でございます。

前理事長であった故大堀 勉先生と小川 彰現理事長の強力な指名により三期九年にわたつて圭陵会長を務めてまいりましたが、私は常々圭陵会長は名誉教授を含めた大学人、いわゆる大学に近い先生方がやるべきという考え方を持つておりました。

この度、そのような本来の体制に戻していただくように小川理事長にお願いをし、快くご了承いただいたところでございます。また、圭陵会の役員の先生方にも先日ご了承をいただいたところでもあります。

これからは私の理想であります名誉教授を含めた大学に近い大学人を会長として先頭に押し立てて、創立百二十周年記念事業を完成させていただきたいと思っております。岩手医科大学が、築いてきた伝統をさらに発展させて下さるものと確信をしております。

今まで皆さまからいただきましたご厚情に対し衷心より御礼を申し上げますとともに、会員の皆様には今後とも岩手医科大学並びに圭陵会に対し一層のご支援をいただくようお願いを申し上げます。どうもありがとうございます。

**二、来賓ご挨拶  
学校法人岩手医科大学  
理事長 小川 彰先生**

圭陵会支部長の皆様、遠方よりまた大変お忙しい中御出席を賜りまして本当にありがとうございます。

圭陵会も大きくなりまして、現在正会員が九千四百名程になっておりますし、近々には一万名を超える大組織に圭陵会もなろうとしております。

先程石川会長よりご案内がありましたように今年度中に新病院の建設に着手し、来年は百二十周年のお祝いをし、平成三十一年には開院という予定で進めており、その現況等につきまして皆様にご報告をさせていただきます。

(引き続き、小川理事長先生より本学の創生期、現在、将来についてのお話がありました。概要については4頁に掲載)

**三、審議事項**

(一) 支部からの要望等について

出席の先生より、次の支部からの要望・提案等があつた。

○ 百二十周年募金に際し、病院を建てるということでは具体的なものが見えない。圭陵会として何を建てるのかという具体的な目標があれば、寄付も多くなるのでは。

○ 国家試験の合格率が低迷してお



り、より実効性のある対策を講じて欲しい。

○ 寄付の額が、年々少なくなっており、旧来の寄付金の集め方では、益々少なくなると考える。

支部では会費の中に寄付用のお金を加えて会費を徴収し、支部としてまとめた募金を行っている例もある。額は少額だが、これは会員全員参加型となり、寄付のあり方の一つではないか。

(二) 代議員会における審議事項

について

増田幹事長より次の説明があり、支部長・参与会として了承された。

① 主陵会からの大学への寄付について

主陵会として「岩手医科大学創立百二十周年記念事業募金」に次により寄付をすること。

寄付金額…一千二百万円前後。

寄付の財源…主陵会基本財産の一部を処分する。

寄付にあたっての手続…主陵会会則により代議員会の議決を経、総会に報告する。

② 熊本地震による被災会員への

支援について

熊本地震による主陵会の被災会員(半壊一名、一部損壊四名)に対し、

東日本大震災の例により、主陵会義援金を支給すること。

これにより、修正予算案を提出することとなったこと。

③ 支部提案について

明日の代議員会において、次の盛岡支部提案が行われ、大学より回答をいただくこと。

○ 国家試験対策について

○ 「誠の医師を育てる」という大学の理念を具体的にどのように進めるかについて

合同懇親会及び就任祝賀会

以上の支部長・参与会の後、来賓・支部長・参与・顧問・代議員及び主陵会役員の合同懇親会、またこの度大学の役職に就任された次の方々の就任祝賀会が六十三名の出席の下、開催された。

〈大学の役職に就任された方々〉

祖父江憲治学長、小林誠一郎副学長、酒井明夫副学長、佐藤洋一医学部長、名取泰博薬学部長、杉山徹附属病院長

平成二十八年度 主陵会代議員会・総会

日時 平成二十八年六月十二日(日)

午前十時

場所 矢巾キャンパス大堀記念講堂

議長 小守林 尚之(盛岡)

副議長 赤坂 俊幸(盛岡)

舘米地 怜(三八)

議事録署名人 加藤 章信(盛岡)

代議員数 村上 正博(仙台)

出席者 百七十六名

委任状出席 七十七名

七十一名

増田幹事長より代議員会開会挨拶、続いて小守林議長より議事進行についての挨拶が行われた。

その後、二十七年度的にご逝去された会員七十名の先生方のご冥福を祈り参会者一同により黙祷が捧げられた。

次に、増田幹事長より代議員会成立の宣言がなされ、引き続き小守林議長より議事録署名人の選出が行われた。

一、石川育成会長挨拶

(19頁支部長・参与会報告に掲載)

二、平成二十七年年度主陵会事業報告

(増田幹事長)

本学は、平成二十六年三月に創立の年を医学講習所が設立された明治三十

年に改め、それにより平成二十六年六月より総合移転整備計画も包括した創立百二十周年記念事業と、その記念事業のための募金を開始しました。

この創立百二十周年記念事業募金に対し、募金開始後一年九ヶ月を経過した本年二月現在で主陵会関係者より二百八十九件、二億五千万円余のご寄付を、またそのほかの方々からのご寄付を合わせますと総額で七百二件、約八億円のご寄附をいただきました。

ご協力いただきました会員そして皆様に深く御礼を申し上げます。

なお、同募金の募集期間は平成三十一年五月までであり、引き続き一層のご協力をお願いするものであります。

平成二十七年年度において主陵会は四大重点施策、①母校岩手医科大学の発



展に寄与する、②学術振興基金の拡充、  
③会員相互の一層の親睦、④学生支援  
事業の推進、に基づいて次の事業を行  
いました。

主陵会活動の大きな柱である学術振  
興会事業では、ご寄付による基金の拡  
充と基本財産の効率的な運用により褒  
賞と研究助成の事業が行われました。

また、本会の主目的である会員相互  
の親睦については、特に平成二十七  
年度は大学の記念事業への支援の一環と  
して各支部総会等に積極的に参加し、  
記念事業の紹介、同事業へのご協力の  
お願い、大学の現況報告等を行ない、  
併せて支部との交流を深めました。そ  
のほか、主陵会々報・FAXニュース  
等により情報提供に努め、支部・会員  
との交流促進の一助としました。

学生の教育効果の高揚と学外活動の  
充実を図る学生支援事業については、  
海外語学研修補助、学生活動優秀者・  
学業成績優秀者の表彰を行いました。

さらに昨年十二月には「主陵会と在  
学生との懇親会」を大学関係者、主陵  
会、医・歯同窓会、薬学部同窓会局・  
主陵会支部役員及び在学生合わせて百  
五十名の参加のもと初めて開催し、在  
学生と食事をしながら懇親を深め、在  
学生との各同窓会への理解と今後の同窓  
会活動への積極的な参加への促進のた  
めの良机会としました。

今後大学は創立百二十周年記念事業  
として、「矢中新附属病院の建設」、「看



護学部の新設」そして様々な整備・改  
革を展開してまいります。主陵会とし  
てもその大学の事業また整備・改革を  
引き続き支援して参りますが、母校岩  
手医科大学が益々発展していくために  
は主陵会員のご協力が必要であり、会  
員の皆様の絶大なご理解とご支援をお  
願ひいたします。

以上の報告に加え、会員数の動向と  
して、現在正会員九千三百八十六名、  
準会員二千九十一名、その他各事業局  
の事業、支部との交流、講師派遣、二  
十七年度主陵会会員物故者、叙勲受  
章・表彰受賞者、主陵会及び各同窓会  
の事業概要の報告があった。

以上の事業報告については特に質疑  
がなく、次第三の審議事項に入った。  
(議長を苦米地副議長に交替)

### 三、審議事項

#### 第一号議案 平成二十七年主陵会

##### 収支決算に関する件(佐藤財務局長)

(決算書は27頁に掲載)

○一般会計の収入は、会費及び事業収  
入等は概ね予定どおり。各同窓会から  
の二十七年年度の負担金は支出が予算に  
比べて決算が二百万円ほど低く抑えら  
れたことから、負担金も減っており、  
健全的に推移している。

○特別会計は収入・支出とも予算に対  
し殆ど差がない状況で推移した。

○義援金の支出はなく、薬学部同窓会  
局もほぼ予算どおりに推移した。

○監査報告 (猪苗代盛昭監事)

私達は複数監事制の下に二十七年四  
月一日から二十八年三月三十一日まで  
の二十七年主陵会事業全般に関する  
監査報告を報告いたします。

#### ○監査意見

①二十八年四月二十三日、監事三名に  
よる監査を行いました。収支計算  
書・財産目録は会計帳簿の記載金額と  
一致し、収支及び財産の状況を正しく  
示していることを認めました。

②業務監査として、年会費の納入に関  
しては、数年にわたる改善により納入  
率は向上して参りましたが、引き続き  
善処を求めました。

③本会の会務の執行状況に關しまして  
は、不正の行為、又は会則に違反する  
ような事実は認められませんでした。

以上の第一号議案については、特に  
質疑はなく、採択が行われ承認された。

#### 第二号議案 平成二十八年主陵会

##### に関する件 (増田幹事長)

本学は来年四月には創立百二十周年  
を迎えます。

大学はその長い歴史において、最大  
の事業とも言える総合移転整備計画事  
業を包括した創立百二十周年記念事業  
に取り組んでおります。

その中でも総合移転整備計画は本年  
三月には新附属病院の核となる「エネ  
ルギーセンター」が完成し、いよいよ  
来年には三十一年の開院を目指し、新  
附属病院本体の建築が着工されます。

また、看護学部については、本年四  
月に学校法人岩手女子奨学会から移管  
を受けた岩手看護短期大学を母体とし  
て、四年制の看護学部を来年四月に開  
設することとしております。

これにより大学は、医・歯・薬・看  
護の四学部体制となり、全国にも例を  
見ない医系の全ての学部を持つ医系総  
合大学となり、三十一年の新附属病院  
の運用開始とあわせ、さらなる発展が  
期待されております。

以上の大学の整備・改革による大学  
の益々の拡充・発展に対し、主陵会と

して今後も一層の協力をを行う必要があると考えております。

その一つとして、本年度も主陵会各支部を訪問し、記念事業へのご協力の呼びかけを行うこととしております。

二十八年度の主陵会事業は、平成十八年度より継続・推進している四大重点施策、①母校岩手医科大学の発展に寄与する、②学術振興基金の拡充、③会員相互の一層の親睦、④学生支援事業の推進、に基づいて展開してまいります。

主陵会活動の大きな柱である学術振興会事業は、褒賞と本年度より復活される「個人研究助成」を加えた研究助成の二本立てで継続推進するとともに基金の拡充にも傾注してまいります。

また、主陵会の主目的である会員相互の親睦、福利厚生の実現はもとより支部との交流により一層の連携の緊密化を図ります。さらに主陵会々報、FAXニュース等により大学の注目記事、学生からのメッセージ等の情報伝達・提供を積極的に進めてまいります。併せて、学生の教育効果の高揚と学外活動の充実のため、学生支援事業の一層の推進を図るとともに在学生の同窓会への理解と同窓会活動への積極的な参加の促進のため、本年度も主陵会と在学生との懇親会を実施することとします。

また、大学の発展・活動に寄与することの一環として二十八年度に開催さ



れる市民に開かれた大学としての取り組みが行われている市民公開講座を後援・援助してまいります。

加えて、東日本大震災後五年となりませんが、いまだに完全とは言いがたい被災地の復興についても、大学そして医療関係者等と協力をし、引き続き支援をおこなって行くこととします。

また、昨年度に引き続き二十八年度も大学の創立百二十周年記念事業への支援の一環として、大学関係者・主陵会役員等が支部総会・クラス会にお伺いし、主陵会員の皆様に直接お会いしてこの度の記念事業、今後の総合移転整備事業、また大学の現況等を説明させていただき、記念事業へのご協力を

お願いをさせていただきたいと考えております。

つきましては各支部・クラス会におきましては、総会・クラス会等の開催の際、その情報を主陵会本部までお寄せいただきたく、よろしくお願い申し上げます。

以上に加え、主陵会常任幹事会・幹事会の総意として次の提案を行います。

一、大学が来年百二十周年を迎えるに当たり次により大学に寄付を行うこと。

(一) 寄付金の名称、岩手医科大学創立百二十周年記念事業募金。

(二) 寄付金額、一千二百万円前後。

(三) 寄付の財源及び手続。

①この度の寄付の財源は、主陵会基本財産の一部を処分することによってある。(参考)二十八年度三月末現在、主陵会基本財産一億六千四百三十八万円

円

②寄付にあたっての手続。

この度の寄付にあたっては、主陵会基本財産の一部を処分することとなることから、会則に定めるところにより、代議員会の議決を経て、その結果を総会に報告する。

③本日、これを提案するとともに、二十八年度の予算も多少変わることを中心し添えます。

二、熊本地震被災者への義援金の支給  
今回熊本・大分地震で主陵会員の先

生方の被災調査を行いました。その結果、診療所または自宅が一部損壊された方が四名、一名の方は診療所が半壊されました。この会員の方に対し、東日本大震災の例によりお見舞いを行うことを提案いたします。

以上については、次の質疑が行われた。

平田 忍(函館)

只今の寄付の提案また熊本地震へのお見舞いの提案について、賛成します。

また、主陵会と在学生との懇親会については、昨年の在学生の参加者数を教えていただきたい。

増田友之幹事長

昨年初めて行った在学生との懇親会は百五十名ほどが集まりました。

学生と主陵会員が一堂に会する時が、一番どの機会が良いか教務課とも相談の結果、各クラブの代表者・クラブ員が多数集まる東医体・全歯体等のクラブ活動報告会終了後、食堂に移動し在学生と主陵会員が相互に懇談をする場というのを設けました。今年も開催を予定しておりますが、在学生百五十名の参加で行いたいと考えております。

以上の質疑の後、第二号議案、併せて大学へ寄付を行うこと及び熊本地震への対応についての提案について採択が行われ、提案どおり承認された。



## 第三号議案 平成二十八年主陵会

収支予算に関する件(佐藤財務局長)

(予算書は28頁に掲載)

先ほどの二十八年度の事業計画の中  
で、予算についての修正案があり、そ  
の修正案を含み説明が行われた。

## ○特別会計予算案

予算は医・歯・薬学部の学生からの  
一時金が主であり、前年度決算と予算  
はほぼ同額で推移している。

支出では大学への寄付が提案され承  
認されたことから、基本金より一千二  
百万円ほど取崩し特別会計から一般会  
計に繰入を行う。

## ○一般会計予算案

支出の修正案として特別会計から一  
般会計の収入に繰り入れられた一千二  
百万円ほどを大学に寄付(支出)して  
いる。

## ○義援金特別会計予算案

先程承認いただきました熊本の会員  
へのお見舞い金を支出する。

## ○薬学部同窓会局予算

ほぼ前年度決算と同額の予算。

以上の第三号議案については特に質  
疑はなく、採択の結果承認された。

## 第四号議案 主陵会会則及び主陵会

会則施行細則の一部改正に関する件

(事務局)

## ○改正理由

大学の来年四月の看護学部新設に伴

う会則等の一部改正を薬学部を新設の  
時の改正に沿った形で行うもの。

## ①主陵会会則の一部改正

現行の第六条(二)準会員、この準  
会員の定めを「医学部、歯学部、薬学  
部ならびに看護学部在籍中の学生」  
と、看護学部を入れた改正とする。

## ②主陵会会則施行細則の一部改正

看護学部新設に伴い看護学部の準会  
員の会費を定めるもので「看護学部準  
会員の会費は、一時金は入学手続と同  
時に一万円、入学の翌年から卒業まで  
年一万円ずつの四年間で計四万円を納  
入し、以後徴収しない。」とする。

## 第五号議案 主陵会学術振興会会則等

## ①改正理由

大学の組織変更、全学教育推進機  
構・医歯薬総合研究所の設置等によ  
り、主陵会関係規定の一部改正、名称  
の読み替え等を行うもの。

## ②具体的改正内容

学術振興会会則の一部改正では、役  
員に新たに設置となった「全学教育推  
進機構長」を加え、共通教育センター  
長を今回名称変更となった「教養教育  
センター長」に読み替える等の改正。

学術振興会実施細則の一部改正では  
共同研究者について「異なる講座・学  
科等、または異なる学部等の者である  
ことが望ましい」と、共同研究という  
趣旨により、選考委員会の審議に基づ

いた条文改正等を行う。

以上の第四・五号議案については特  
に質疑はなく、採択の結果承認された。

## 第六号議案 支部提案事項に関する件

予め予告のあった支部提案について  
盛岡支部より次の提案があった。

## 河嶋 寛(盛岡)

この度の医師国家試験がワーストと  
いう結果は、卒業生として大きな衝撃  
を受けました。本日の代議員会・総会  
において、避けて通れない問題であり  
ます。当然のことながら大学としてさ  
まざまな分析をし、対策を立てている  
ことと思います。その内容について医  
学部長にお願いします。

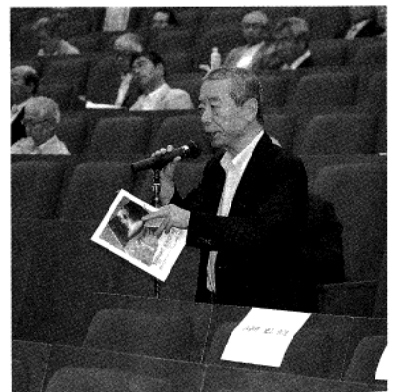
その上で、国家試験対策(医・歯・  
薬含めて)があまりにも至上目的とな  
り、建学の精神を学ぶ機会が少なく  
なるといふことを懸念しています。

「私立岩手医科大学」の特徴をどの  
ように学生に浸透させ、「誠」の医師  
を世に送り出そうとしているのか、学  
長としての構想をお願いします。

## 佐藤洋一医学部長

(説明概要を掲載。国試については、「医  
学部同窓会評議員会報告」38頁に滝川  
医学部教務委員長の説明を掲載してお  
り、合わせてご覧下さい。)

○学生は国試をすれすれでも通ればい  
いという気分を一掃する。それから、



天下を取るといふ、そういった気概を  
学生と、それから教員のほうも持たな  
ければいけないこと。

○一方では、そのような精神的なもの  
のほかに、縦断的な解析、情報解析が  
必要。それから多様な学習環境の整備、  
現在矢巾ではこれだけの学習設備があ  
りますが、まだまだ足りません。まし  
てや、病院の方にも研究教育スペース  
というのもある程度必要になってくる  
と私は思っております。これについて  
は勿論文科省の政策誘導に沿った補助  
金獲得も考えております。

○現在は認知領域だけに着目しており  
ますが、これから分野別認証評価が始  
まると行動、態度、技能、こういった  
ものが問われます。この試験も恐らく  
始まります。自律的教育改革が問われ  
ております。したがって、熱意、戦略  
的対応、この二面が必要になります。

○教育の質的改善には原点回帰、地域  
医療、チーム医療、三田俊次郎、それ

から真理の探究、人格陶冶といった三田定則、この二人の原点に立ち返ることが中長期的な医学部の改革ではなからうかと思っております。

祖父江憲治学長

国試対策については、各学部とも改革を進めておりますが、特にここ最近の医・歯・薬、三学部とも共通して言えるのが、現役よりも国試浪人の方が合格率が高いという問題です。これは、受験に臨む緊張感、そこを含めたガッツが欠けている点があるのではないかと思っております。これに関しては、喫緊の問題として学生諸君も危機感を持っていてと思いますが、さらに鼓舞してやってまいりたいと思っております。

誠の医療人の問題に関しては「医療人たる前に誠の人間たれ」という、医療を行う時には誠の人間として医療をせよと、そういうことかと思っておりますが、結局それはどういう医療人かということになります。一つは包容力のある非常に大きな人間として医療を行うということかかと思っております。

私は、学生に対し、病院等に訪ねる患者さん及びそのご家族の皆さんは、身体あるいは心の痛みを感じて来られる方ですから、諸君はその患者さん及びその家族の痛みを理解する医療人になつてくれというのを常に学生たちに申しておりますが、特にこういう「誠の医療人たれ」という時に特に大事な

のは初期、つまり一年生に入った時からの学生への教育が大事なのだと思っております。

先ほど来、国試の話が出ておりますが、国試とそれから誠の医療人たれというところは本来一致すればいいのですが、非常にギャップのあるところでもあります。これをできるだけ別個のものにせず、やってまいりたいと思っております。そのため教育に関しては三学部それぞれで各カリキュラムの中にもそのようなものを入れ込んでやっていくということを現在行っております。

特に多職種連携ですが、これはチーム医療を行う上で非常に大事なことで、これはかなり積極的に現在行っております。

それから、もう一つが三学部ともに早い段階で医療現場を見学させるというアーリーエクスポージャーですが、



これも現在カリキュラムを改編して行っている段階です。以上です。

この支部提案については、特に質疑はなく次の審議事項に入った。

第七号議案 顧問及び参与の委嘱

に関する件 (増田幹事長)

顧問及び参与の委嘱については、会則では「本会に名誉会長、顧問及び参与を置くことができる。名誉会長は本会に特別功労のあった会長のうちから代議員会の議決を経て選任する。顧問及び参与は代議員会の承認を得て会長が委嘱する。」となっております。

今年度は、顧問については、平成二十八年三月定年退職されました先生で役員でなくなった先生を委嘱したい。

参与のご辞退については、吉成俊太郎先生(医学部六期)、元秋田中央支部長先生から参与をご辞退いたしましたという旨の申し出をいただきました。

新たな参与の委嘱については、各支部より委嘱はございません。

併せて、新たな提案をさせていただきます。

石川会長は今期限りでご勇退されるという意向を示されております。石川会長には二十八年七月一日付で会則に定める名誉会長に推薦させていただきますと思っております。あわせて長年、三期九年にわたり務めていただきました石川先生には本会の運営にご尽力いた

いたことに対し、主陵会一同より感謝状を差し上げたいと存じます。

以上について、ご出席の皆様のご賛同をお願いいたします。

以上の顧問、参与についての提案、併せて石川会長を名誉会長に推薦すること、また主陵会より感謝状をお贈りすることについては特に質疑はなく、採決の結果、承認された。

第八号議案 役員改選に関する件

(増田幹事長)

○今年度は任期三年の本年六月三十日任期満了に伴う役員改選の年です。

○役員選挙は、会則第八条及び役員選衡施行規程により行います。

○公示は四月一日に主陵会ホームページにて、また主陵会々報二十八年四月号にて行いました。

○立候補は、五月二十六日午後五時をもって締め切られました。

○選挙期日は本日の主陵会代議員会。

○選挙する役員及び定数は会長一名、監事三名、議長一名、副議長二名。

○立候補者は只今配付された資料のとおりです。

会長 医学部十四期、盛岡支部 齋藤 和好先生

監事 医学部十五期、盛岡支部 岡田 健男先生

医学部一期、気仙沼支部 猪苗代盛昭先生

他大学出身、学内支部

(薬学部教授) 工藤 賢三先生  
議長 歯学部一期、盛岡支部

小守林尚之先生

副議長 医学部二十一期、盛岡支部

赤坂 俊幸先生

医学部二十二期、三八支部

吉米地 怜先生

○選挙及び当選者について

役員選衡施行規則により届け出のあった候補者がその定数を超えていないときは、投票によらないで当選人を決定することとなっております。よって、会長一名、監事三名、議長一名、副議長二名は当選したものと認めます。その他の役員について、医・歯学部同窓会長である副会長を除く副会長、幹事長、副幹事長、常任幹事、幹事は、会則に基づき、主陵会長が医・歯同窓会長である副会長に諮って任命することとなっております。

以上については特に質疑はなく、吉米地議長より、立候補者全員当選となり、当選証書を交付する旨の説明があり、拍手をもって承認された。  
ここで、吉米地議長より当選証書が各人に渡された。

齋藤和好次期会長挨拶

皆様、昨日の会と、それから今日の会と大変ご苦労さまです。小川理事長先生からご推薦いただき、立候補とな

りました。

もとより浅学非才の身でありますけれども、大学が非常に大事な時であります。今までいろいろお話がありまして、たよりに矢巾の移転問題、内丸メデイカルセンターの問題、そして佐藤医学部長からお話がありました国家試験の問題と非常に大事な問題を抱えている時期になっております。

もとより主陵会あつての大学、大学あつての主陵会と、いつもそう思っておりますので、今日お集まりいただきました各支部また役員の先生方、そしてそのほかいろいろな先生方からのご指導、ご助言をいただきまして何とかやっていきたいと思っておりますので、どうぞご指導のほどよろしくお願いいたします。ありがとうございます。

(議長を赤坂副議長に交替)

#### 四、主陵会学術振興会報告(事務局)

○二十七年年度の事業

褒賞の岩手詣学士賞は応募者なし。学術賞三名。共同研究四名を決定。○学術振興会基金寄付者 二戸支部様、十万円。

○二十七年年度決算

利息六百五万円に対し、事業費が四百五十七万円。これにより、基金への繰入は百四十八万円、基本財産未繰入金は研究未使用額を含め一千五百九十七万円となった。その結果、基本財産は四億三百九十九万円となった。

#### ○二十八年度の事業計画

二十八年度は基本財産からの利息収入が政府が開始したマイナス金利政策により二百万円程度の見込みである。その中で、学術振興会の事業は大学との協議をもとに基本財産からの利息二百万円と基本財産未繰入金を取り崩した総額をもって一定の事業の継続を行っていくこととした。

これにより、二十八年度の事業は、本年度より復活した若手研究者のための個人研究事業一件三十万円を含め、公募どおり岩手詣学士賞一件、学術賞四件、共同研究四件、個人研究四件とした。なお、今後の事業については、基本財産からの利息収入の大幅な増収が当面期待できないことから、二十八年度と同様に基本財産からの利息収入と基本財産未繰入金からの取り崩しを合わせた財源の中で継続した事業として行っていく必要があり、今後とも各年度において採用件数等について種々検討をし、やっていくこととした。

○二十八年度の学術振興会予算

利息収入が二百万円、支出は事業費が五百八十八万円となり、収入不足分三百八十八万円を基本財産未繰入金から取り崩す予算となった。

以上の主陵会学術振興会報告については特に質疑はなく、次第の五「その他」に進んだ。

#### 五、その他

(事務局)

①百二十周年記念事業募金について

募金目標が五十億円、募金期間が三十二年五月まで、現在の募金の累計額、二十八年二月末現在主陵会員二百八十九件、二億五千七百三万円、全体で七百二件、八億一千九百五十万円。

以上ですが、主陵会といたしまして皆様からの絶大なるご支援を重ねてよりしくお願いをいたします。

②主陵会FAXニュース

二十七年度は第三十八号から四十三号を配信。

③二十八年度学術振興会褒賞授与

(11頁に掲載)

④主陵会学生生活動優秀賞 団体二件

○「吹奏楽サークル」(61頁に掲載)

○「二〇一三年度循環器内科分野研究室配属チーム」

以上の報告については質疑はなく、平成二十八年度代議員会を終了した。(午前十一時五十四分 閉会)

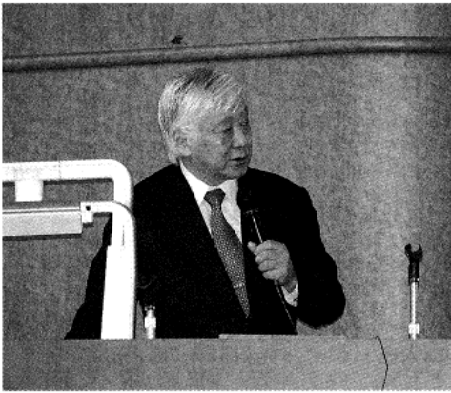
総会(午後零時五分 開会)

赤坂副議長による進行で総会が開始された。

一、ご来賓挨拶

小川 彰理事長ご挨拶

(4頁に掲載)



**祖父江憲治学長ご挨拶**

この春、学長を拝命いたしました祖父江でございます。

先ほど来お話がございましたように、来年本学は百二十年の節目に当たっており、それに伴い矢巾新病院、そして内丸メデイカルセンターという二つの大事業が進行してまいります。これが大体十年位で一つの区切りがつくかと思っております。

実はその後に、今から二十四年後に人口の減少、十八歳年齢の人口の減少という大きな変化が訪れてまいります。特に東北地方においては医学、医療面での非常に大きな変革が起こる時に当たってまいります。

そういう時期に本学がそれを乗り越え、さらに岩手、北東北、さらには東北での医療を支えていく大きな大学と

しての役割が特に求められる時期になろうと思えます。

そういう意味合いで、現在の我々岩手医科大学の新役員体制これがその礎を築く時期にきていると思っております。我々粉骨碎身頑張っております。

圭陵会の先生方には本当に温かい、熱い思いで本学の運営にご理解とご指導をいただいておりますが、今後とも先生方のご指導をいただきながら我々も頑張っておりますと思っております。で、よろしくお願い申し上げます。

**二、ご来賓の紹介**

三浦廣行副学長・歯学部長

佐藤洋一医学部長・全学教育推進機構長

名取泰博薬学部長

三、審議事項

第一号議案 代議員会議決事項の承認

第二号議案 その他

第一号議案及び第二号議案については特に質疑はなく、赤坂議長より採択が行われ承認された。

その後、平成二十八年度圭陵会学術振興会褒賞授与及び圭陵会学生支援事業選考委員会褒賞授与が行われた。

最後に赤坂副議長より総会終了の挨拶があり、平成二十八年度総会を終了した。

(午後零時五十六分 閉会)

**岩手医科大学創立120周年記念事業募金について**

- (1) 募金目標額：50億円
- (2) 募集期間：平成26年6月～平成31年5月
- (3) これまでの募金累計額(平成28年4月30日現在)

区 分	申 込 件 数	募 金 累 計 額 (28.4.30現在)
圭 陵 会	295	264,730,000円
在 学 生 ご 父 兄	205	153,635,000円
役 員・ 名 誉 教 授	35	41,660,000円
教 職 員	74	13,707,000円
一 般	26	21,080,000円
法 人・ 団 体	90	352,425,000円
合 計	725	847,237,000円